《第１５３号》　2010年5月創刊　　8月6日発行　2023年８月号

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36
編集責任者　牧師・司祭　ミカエル小南　晃

キリストの平和

わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ・・・

（マタイによる福音書１０：３４）

８月の主日は８月６日から始まります。この日は「主イエス変容の日」ですが、同時に「広島原爆の日」でもあります。続いて８月９日には「長崎原爆の日」を迎え、また８月１５日には「終戦記念日」を迎えます。今月は例月にも増して戦争の悲惨さ、そして平和の尊さに心が向くのではないでしょうか。

キリスト教は平和の大切さを説いています。イエスは山上の説教で「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる（マタイ５：９）」と教えられ、また復讐することを戒めて「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい（５：３９）」と語られ、さらに「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい（マタイ5:44）」とも教えています。

イエスの説く愛の教えは暴力、憎悪と復讐の対極にあります。しかし冒頭に記したイエスのみ言葉には多くの方が驚き、あるいは反発さえ感じられるのではないでしょうか。また「平和ではなく、剣をもたらすために来た」というみ言葉について、歴史を見る時、多くの宗教戦争があり、現在でも宗教や信仰の違いが紛争、対立の火種になっているかのように見えることがあります。

そうした争い、戦争は主キリストの御心なのでしょうか。勿論、決してそうではありません。

宗教戦争は見た目には十字の御旗を掲げても、そこには何らかの人間の側の欲望の追求があり、しかもそこに神の御名、主キリストの御名を所謂「錦の御旗」として利用しているのです。

最も尊く、全ての者がその前にひれ伏すべき、主キリストの御名を、自分の欲望の充足の為に利用することは醜悪極まりないことであり、その醜悪さ、罪深さに応じた悲劇を生じさせるのです。

しかしイエスは確かに地上に剣を持ち込まれました。しかしそれはエフェソ書６：１７「霊の剣、即ち神の言葉」、ヘブライ書４：１２「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分ける」と語られている剣です。それは「神のみ言葉」のことです。

その剣は真の平和をもたらすために、偽りの平和を打ち砕くために振るわれることになるでしょう。偽りの平和とは人々に神を忘れさせ、この世の富と欲望の追求に埋没させ、良心と魂を眠りに陥らせてしまうような安逸さと言えるでしょう。

その一方で真の平和をもたらすための信仰の戦いが全く正しく戦われた時には、イエスが十字架に架けられながらも、自分を殺す者の為に執り成しの祈りをされたような殉教の死はあり得ても、間違っても相手を殺すことによって勝利する信仰の戦いはないのです。

そのような戦いへとキリスト者は招かれています。自らの内に起こる悪欲や不信仰、また社会の不正義に対して「神のみ言葉」によって戦うためです。しかし弱い私たちにはそれは大変な試練でもあります。この時に真の平和のために神の助けと導きを祈り求めたいと思います。